

NACS-J 里やま保全のためのワークショップ「地域の保全計画をデザインする」

進行の手引き

お配りしたテキストは、NACS-J「身近な自然を見つめる目」調査学習会にて実施したワークショップで使用した資料です。ここでは、そのテキストを用いてワークショップを進行するために必要な道具や補足資料、進行上の注意点についてまとめました。皆さん自身でワークショップを実施する際には、これらの道具を準備するとともに、この手引きにのっとりワークショップを進行する「コーディネーター」となる方を決めて下さい。

=====

■ 作業に必要な道具

1. ワークショップの作業用シート（台紙）
2. 発表用「計画表」
3. 大きめのフセン（4色）
4. カラーペン（細・太各種）、鉛筆、消しゴム

※作業用シートは、同封した様式を A1 サイズほどに拡大したものを用意してご使用下さい。

■ テキストの他に準備しておく良い補足資料

① 対象地域に生育・生息し、保全対象の候補となる種のリスト

- ・ 種名、生育・生息環境と生態、食性（動物のみ）、個体数や繁殖状況のモニタリング方法、情報の出典、などについて表にリスト化したもの

② 対象地域で活動する市民団体のリスト

- ・ 団体名、活動場所、主な活動内容、などの情報について表にリスト化したもの

※同封した補足資料の例を参考に、自分のフィールド版のリストを準備して下さい。

■ ワークショップの進行上の注意点

- ・ 参加者は、あくまで保全計画の作り方を仮想的に学ぶためのワークショップであることを認識してください。
- ・ 仮想的な計画作りですので、必ずしも全ての関係団体が参加する必要はありません。
- ・ 参加者が多い場合は、4～6名ほどの班に分かれて作業を行い、あえて複数の保全計画案を作ると良いでしょう。複数の団体から参加者がいる場合には、なるべく団体を混ぜて班を作ってください。
- ・ 作業は、テキスト 5 ページにかかれた各ステップに沿って進めます。保全計画の作成は、現実性があり完成度が高いほど非常に時間を要しますので、ワークショップでは作業が不十分でも各ステップ 20～30 分を目処に次のステップに進んで下さい。
- ・ 実際の保全計画作りでは、ステップ 0（0-1：メンバーを集める、0-2：対象範囲を決める、0-3：目的・管理指針を決める）が最も重要であり、非常に時間と労力を要する作業となります。ワークショップでは、合意形成が困難と予想される場合には、ステップ 0-1 と 0-2 は運営者が事前に仮想的に設定しておき、ステップ 1 から開始しましょう。
- ・ ステップ 5 まで終了したら、結果を「計画表」にまとめて各班発表し、保全計画案とそのような計画を作った根拠や議論の経緯について、参加者全員で共有しましょう。
- ・ 各ページ下部の「実際には・・・」の欄は、実際に現実の保全計画を作成する際に役立つ項目を記したものです。ワークショップでは特に無視して頂いて構いません。